

2005年4月7日

バングラデシュ人民共和国首相
カレダ・ジア殿

2006年4月3日にカグラチョリ丘陵県モハルチョリ郡のサプルー村、ジョイセン村、チョクロ・カルバリ村およびノア村で発生したベンガル人入植者による先住民族に対する暴力的な襲撃事件に関する深い憂慮の念をお伝えするためにご連絡いたしました。二人の若いマルマ民族の女性が事件で入植者により残虐にも集団レイプされたことに深いショックと憤りを覚えています。土地収奪を狙う入植者によって仏教系孤児院と多くの家屋が略奪され、重傷者数名を含む約30名の先住民族が負傷しました。事件現場から200メートルほどしか離れていないノア村武装警察隊キャンプの人員が襲撃を止めるために何もできなかったこと、その何人かが事件現場で目撃されたことは特に見過ごすことができません。

今回の事件は、同地域でベンガル人入植者による先住民族の土地の不法収奪が激しさを増す中で起こりました：

- 近くのガマリダラでは、先住民族の登記された土地100エーカー以上に入植者によって115戸以上の住居が建設されています。地元の軍隊が見守り、協力していると言われます。住居を撤去するとの軍の約束も果たされていません。
- ブッダ・シシュ・ゴル（ブッダ子供の家）という孤児院も登記された土地のほとんどを不法な土地収奪で失っています。
- 3月4日には、これらの土地収奪に対する非暴力の抗議活動に関わっていた先住民族住民数名が軍にひどい暴力を振るわれ、逮捕されました。その翌日、軍はカグラチョリ裁判所に侵入し、その二人を外に連れ出し、銃を持たせて、でっち上げ写真を撮りました。彼らは武器不法所持の嫌疑をかけられ、現在も拘束されています。

国内の人権状況がこれほど混乱していて、バングラデシュはどのようにして国連人権理事会の理事国として立候補できるのでしょうか。チッタゴン丘陵地帯の先住民族は、その安全を維持する名目で配置されている治安軍が見守る目の前で、加害者への何の咎めもなく、土地、命、尊厳を奪われながら、いつまで黙って苦しまなければならないのでしょうか。白人がアメリカ大陸の先住民族に対して、そして日本人がアイヌ民族に対して犯したのと同じ犯罪をバングラデシュ

も繰り返さなければならぬのでしょうか？自らの言語とアイデンティティを守るために勇敢に戦った国であればこそ、先住民族が独自の生き方を守ろうとする意思を尊重すべきではないでしょうか。

この忌まわしい事件の不正を正すために直ちに以下の行動をとるよう、貴政府に強く要請いたします：

1. 4月3日の襲撃事件の実行犯、特にレイプ事件の犯人を厳重に罰すること。
2. 被害者に対して無料の治療、損害賠償を提供し、さらなる暴力や土地収奪から守ること。
3. 4月3日の事件におけるヌア村武装警察隊の役割およびガマリダラ付近の土地収奪における軍当局の役割を調査すること。職務怠慢もしくは不法行為の幫助・教唆が認められる人員に対する懲戒処分もしくは訴追を行うこと。
4. ガマリダラの係争地にベンガル人入植者によって建設された新しい住居を撤去し、土地の所有者である先住民族に返還すること。
5. 3月4日に逮捕された先住民族を釈放し、虚偽の訴訟を取り下げること。

私たちは自国政府、特に政府開発援助当局に上記の問題を知らせます。上記に関して貴政府が行動を取らなければ、そのことは決して見過ごされたいでしょう。

敬具

ジュマ・ネット

代表 下澤嶽

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 5 階

電話・ファックス：03-3831-1072

E-mail: office@jumma.sytes.net

賛同団体・個人：